

審議院選舉の裁判所裁判官最高裁判所

國議院議員選舉の最高裁判所裁判官の選舉は、衆議院議員の選舉と最高裁判官の國民審査とが同時に行われます。衆議院議員の選舉と最高裁判所裁判官の國民審査と同時に、投票用紙が渡されるわけです。衆議院議員の選舉の投票所では、候補者一人の氏名を書いて投票箱に入れるのです。國民審査の投票用紙には、裁判官の氏名の上欄へ×の字を書いて投票箱に入れます。この記號式の投票は、裁判官の氏名の上欄へ書いたり、氏名の上欄をひつぱつたりすれば、その投票は無効になりますから十分注意して投票して下さい。何も記入しないで印刷した投票用紙をそのまま投票箱に入れれば、投票所の入場券を配られれば投票ができます。いゝと思われる方は、何を記入しないで印刷した投票用紙をそのまま投票箱に入れれば、投票所で行うことになります。盲人の方は点字投票を

又身体の故障で自分で記載できない方は、代理投票をすることができます。理の人がその人にかわって記載する代理投票をすることができます。又次のような方で投票しないと思われる方は、豫め不在投票をして置くことができます。それは、所屬の投票區に従事されている方、選舉事務に關係ある方、で所屬の投票區の區域外で仕事に従事中の方、その他やむをえない理由又は事故のため所屬の投票區のある都市外に旅行中又は滞在中の方、疾病、負傷、妊娠が困難な方々であります。

すが、病氣等で歩いて行けない方はこの投票用紙を郵送することができます。不在投票は、投票日の前日まで書きますがでさるだけ早く投票を済まして頂きたい。以上二投票の手續について申向し上げましたが、投票の正しい行使は何といつても、有権者の皆様の正しい判断により立派な候補を選ぶことであります。

日雇労働者の皆様に
勞務加配物資について

日雇労働者に對する
勞務加配物資の事務は
從來労働基準監督署又
は縣の建設課で取扱わ
れていたのですが、昭和
二十四年の一月から
は、公共職業安定所で
行われる事になりました。
日雇労働者と一口に
言いましても、非常に
多くの業種に分かれていますが、今度公共職業
安定所で取扱うこと
になつたのは、大体次
の範圍になつていてます
先ず「日々の契約によつて働く者で」、進
駐軍關係労働者及び勞
働基準法の適用を受け
る者以外のものとなつ
てあります又、「請負契
約で働く者」として例
えば大工、左官の一人
親方などが擧げられま
すが、加配の對象とな
るのは業種、仕事の内
容に依り制限がありま
すから細部については
縣の職業安定課なり最
寄りの公共職業安定所

なりで判定すること
なります。配給品目としては
主食（一日平均一合）と、衣料品があ
ります。次に受配の手続き
が定所で一切の手続き
を致しますが、そうで
働く者についても、そ
れに人々についても次
順序を踏んで行なわれ
ます。すなはち、先ずは
寄りの安定所又は所
に勤務組合の事務所に
行き場合にはそれを
つて、仕事先の事務所に
自分の印を捺して、
月の二月までに安定
機関として、關
面倒な事務を圓滑
に差し出します。こうゆう風な非常
正に進めるために、新しく事務をとる職
業安定機関として、關
方面的理解ある御助
をあ願い致します。

清き一票を



發行處
原書通課
松秘人
廖所刷印
小廳行所
和歌山縣
和歌山市
和歌山縣
編集兼發
和歌山縣
定價②

書を關係のある官公署業務主、住所地の市町村長、醫師又は産婆から書いてもらつて市町の選舉管理委員會へ投票用紙と投票用封筒の交付を請求するのである。すると、その市町村選舉管理委員會から投票用封筒をお渡ししますからそれによつて投票するのです。この市町村選舉管理委員會十九日午後一時野町。二十日午後一時から隅田村、午後一時から橋本町、二午後七時から和歌山市第三單位第一區では第一班は

度山町より由良町十九日から高後一時より御坊町。十日午後一時より印町。二十一日午後七時より南部町。二十二日午後一時より田邊市個人演説會や街頭演會も開催されていまラジオでは各候補者政見放送、經歷放送やつておりますし、聞でも各候補者が政等を廣告いたしてあります。

農地解放の實績

▲三合配給即時實施
『統制絶対反對』
『平撒廢』等々▲
これは前回總選舉當時会
の候補者が誠しこと
かに叫んだスローガ
であった。▲中々以
動景氣が良い。一般大會
とがワツと飛び付いた



高僧傳記

表發品秀作優文論政縣友の民縣

★ 選 舉 標 語 審 查 發 表 ★

(2) 星は心なく久太郎先生は想念の中に一
合の秤を置き、屈辱と榮達の重量を計つてみた。目盛の針はびいんと榮達の方を指した。
山本ならで上司の前の平蜘蛛譲長も、會て天秤にかけてその二つの重量を計つたことがある。その結果、三十年來の屈辱が、さして屈辱とも感じないほどのまゝ課長席を得た。課長席にどつかと尻をせた快適感を、その報酬のように感じていた彼も、いつか優越感の魔酒に酔いしがれとなり、やはり官界遊泳の最上の手段、更道榮身の秘策は、それであると決定し、ひそかに部下職員の中にそれを求めた。

その課長の眼鏡に久太郎先生の姿のとまつたのも當然なことである。彼とて、自己の魂の中にうづくまる屈辱の役に侮蔑を感じたこともあつたが、結局、屈辱者が現實にあつて築身していく後姿を眺めていると、想念の中の天秤が榮達の重きより動かなかつた。「馬場君、ちよつと」といたい誠實をうだがつてもやはり、ペコりと頭をさげる部下の方が膚ざわりがよいらしく、事々につけて久太郎先生を選んで用命した。

「今夜、君、何か用があるかね？」

「いいえ、別に」

「そう」課長は卓上のメモに色鉛筆を走らせた。午后七時半、拘室まで足跡をりぬ、「はあ、承知しました」

くしゃくしゃとメモ用紙を丸める音の中で久太郎先生は深く頭を垂れて答えたのである。兩人は別々の感情で軽い優越に似た感情をもつた。

その夜の定刻には、主従のようす連れ立つてWのK旅館に足を運んでいった。宿にはすでにでつとりと肥えたHという實業家が待つていて

「えむ・よしむら
二人が挨拶を交すと、すぐ女が加はつて酒宴に移つた。それは、どんな目的で行われているかは兩人とも、今までの途がらずでに豫想できていたが、やはり美人美酒の接待は覺醒どきの良追いやつた。
「役人暮しのみじめさがにしみますな」
久太郎先生がH氏の手前はばからず、豪華な料理をえた。
「全くだ、われわれじやちよつと、こんな豪運は近づいたH氏の耳に皆まで葉のはいることをはゞかつと、流石に課長は、その「まあ、ともかく、山本長、頼みますよ」返事はしなかつたが魚心の取引ができるたらしく飲して開戦となつた。
呼んでくれたタクシーを中ですでに兩人は後味の悪い美酒に口を拭つたが、その通りはこれなかつた。その夜流石に課長も名譽ある役を太郎先生にやらせる氣にもならず、たゞ、黙々と歩きつけた。
見あはた星の輝りも心に不吉な豫感を感じ、思わずぶるぶると身ぶるいをした外気の寒さの故であつたうか。